

本日の会議に付した案件

○政府参考人の出席要求に関する件

○農林水産に関する調査

（食料自給率に関する件）

（台風等による農林水産関係被害への対策に関する件）

（家畜伝染病対策に関する件）

（収入保険及び農業共済に関する件）

（森林の整備・保全に関する件）

（国家戦略特別区域制度における農林水産分野の提案に関する件）

○委員長（江島潔君） ただいまから農林水産委員会を開会をいたします。

（略）

○委員長（江島潔君） 農林水産に関する調査を議題とし、質疑を行います。

質疑のある方は順次御発言願います。

（略）

○宮崎雅夫君 自由民主党の宮崎雅夫でございます。

本日は、江島委員長、理事の皆様方、そして委員の皆様方の御配慮によりまして、私も国会で初めて質問をさせていただきます。感謝を申し上げます。貴重な時間でございますので、早速質問に入らせていただきます。

今日も午前中から台風等の自然災害についての質疑があったわけでございますけれども、私も、それについてまず質問をさせていただきますかと思っております。

本年も、残念ながら、台風十九号を始

めとして自然災害が多発をいたしました。甚大な被害が全国各地に広範囲に発生をいたしました。お亡くなりになられた皆様の御冥福と、被災された全ての皆様に私からも心からお見舞いを申し上げます。たいというふうに思っています。

私も、佐賀県、千葉県、宮城県、そして茨城県、福島県、被災地視察をさせていただきました。河川の氾濫などによりまして土砂などに埋もれた農地、水没した用排水機場、のり面がえぐられた水路や農道、そういう大きな被害の状況を目の当たりにいたしました。一日も早く皆さんの生活が元に戻って営農などが再開できるように、できるだけの支援を早急にやっていかないといけないと痛感をしたところでございます。

台風十九号につきましては、発災前からこれまで、政府全体でしっかりと対応を素早く取ってきていただいております。先月二十五日には、台風十九号も含めた農林水産関係被害への支援対策をいち早く取りまとめ発表をいただきました。そして、激甚災害の指定、大臣からもお話がございましたように、追加の支援パッケージについても早急に発表されると伺ったところでございます。これらの対応を是非スピード感を持って取り組んでいただきたいというふうに思っております。

今後の対応の中でございませぬけれども、農地、農業用施設、林道、漁港など農林水産業を支える基盤につき



ましては、営農再開、継続のため早期に復旧をさせなければなりません。今後、災害査定、そして復旧工事ということになるわけでございますけれども、査定件数は相当な数になるというふうに思われます。その対応の主体となる市町村では、技術系職員の方が非常に限られておるということもございますし、それを短期間でやっていかないといけない、査定設計書を膨大な数のものを作り上げていかないといけないという実務的なこれは問題もでございます。

最近では様々な簡素化の取組ということも既に実施をされておるわけでございますけれども、この台風十九号での対応といたしまして、災害復旧に係る簡素化について、そして必要な技術者の確保にしたいと思っております。

○政府参考人（牧元幸司君） お答えを申し上げます。

今委員から御指摘いただきましたように、今回のこの台風十九号の被害につきましては、大変被災箇所が多いということ、もう災害査定についても箇所が膨大ということでございます。このため、この災害査定につきましては、机上査定範囲の拡大とか、あるいは図面の簡素化によりまして効率化を図っているところでございます。

また、人的な支援ということにつきましては、本省の災害査定官を始めいたしましたMAFF・SATA、農林水産省・サポート・アドバイスチームというふうな言っておりますけれども、このMAFF・SATAによる技術者を派遣をいたしまして、被災施設の復旧工法等に係る技術支援というものも実施をしております。加えまして、災害設計資料を作成するに当たりましてコンサ

ルの皆さんの確保というものが大変重要ということでございますので、測量設計コンサルタントの確保に向けてまして、関係団体に対しましても積極的な対応というものを依頼をしたところでございます。

引き続きまして、地方公共団体と連携をいたしまして、これら農林水産業施設の早期復旧に向けて必要の対応に努めてまいります。

○宮崎雅夫君 ありがとうございます。引き続き適切な支援をお願いしたいというふうに思います。

私も、宮城県の被災地にお伺いをした際、紙委員もおっしゃっておりますけれども、私も大崎にお邪魔をいたしました。そのときに、平成二十七年に被災をした排水機場が再度被災をしたということでございます。その当時、地元では原形復旧ではなく設置場所のかさ上げなどの対応を要望されたそうでございますけれども、認められなかったということでございます。大変残念なことでございます。

先ほど山田委員からお話もございましたけれども、復旧工事ということは原形復旧、これが基本となっておりますけれども、現地では、先ほどの排水機場のように、今後の災害に備えて機能向上、これを図りたいということでございます。とか、農地であれば、園地であれば先ほどのお話もございました。例えば、水田であれば大区画にしたいというような御



要望もございませう。原形復旧と併せまして機能向上を行うということも、先ほどお話がございましたように制度的にはあるということでもございませうので、地域の要望に応じて積極的にこれは対応していく必要があるというふうなことを考えております。それから、査定をする側、それから地元側も情報がやはり不足をしているというふうな感じているところもございませう。

そこで、再度災害防止に向けた取組のお考えについて伺いをいたします。

○政府参考人（牧元幸司君） ただいま委員から御指摘いただきましたように、被災した施設の復旧につきましては、原形復旧が原則ではあるものの、やはり再度災害防止に向けた取組も大変重要というふうなことを考えているところでございませう。

今回は大変排水機場等に多くの被害が出ているということでございませうので、浸水被害を受けました排水機場、また集落排水施設につきましては、被災原因となりました洪水等から施設を守ることが困難な場合、このような場合にあっては、災害復旧事業におきまして、施設への浸水を防止するための窓などの開口部の閉塞あるいは電気設備の高い位置への移設等を経済性を考慮しつつも実施できることといたしまして、先般通知をいたしましたところでございませう。

また、排水能力の増強という声も大変多く私も承っているところでございませう。この排水能力の増強に当たりましては、まず排水先の河川の流下能力がないとできないということもございませうので、流域全体の排水計画の中でこれをしていく位置付けていただけたということも、前提ではございませうけれども、このような調整が付きませうれば、排水機場の排

水能力の増強につきまして、災害復旧事業と通常の土地改良事業を組み合わせて増強するといったような方法もあるのではないかとというふうなことを考えております。

委員から御指摘ございましたように、なかなかこれらの方策について周知が足りないという御指摘でございます。こういった再度災害防止に向けた考え方ににつきまして、被災市町村等への周知というものをしっかりとやっていきたいと考えております。

○宮崎雅夫君 ありがとうございます。

これだけ大規模な災害が度々発生して、現場の皆さんというのは大変努力をされているわけでございます。しかし、今後とも人材不足という大きな懸念材料もございませう。今局長から答弁をいただいた再度災害防止の対応ということも適切にこれは行っていないといけないということも、私も思っております。災害をきっかけに離農者などを出さないためには、早期の基盤の復旧ということには欠かすことのできないものでございませう。災害復旧について、これまでの延長線ということの対応ではなく、基本的にはちよつと変えていかないと個人的には思っております。台風十九号の対応について質問をさせていだきませう。これまでの質疑の中でも、大臣からも決意についてお話をいただいたところでございませうけれども、



所信の中でも、本年一連の自然災害の対応について万全の対策を講じていくというお話もございました。何度も現地にも足を運ばれております。

改めて大臣の決意をお伺いしたいと思っております。

○国務大臣（江藤拓君） とにかく、ハード面の支援は当然のこととして、お気持ちも奮い立つようなことに気配りをしたいというふうな思っております。そして、基本的には、今委員がおっしゃったように、離農者を出さない、諦める方が出ないということを目標に頑張っていきたいと思っております。

そして、人材につきましても、随分、農政局も含めて本省からも、リエゾンも含めて農業土木の専門家、いろんな人間を派遣はさせていただいておりますが、机上査定といつてももう大変な膨大な量でありまして、しかし、査定ができません。ばばなかなか前に進まないということもありません。

水門なんかの、今局長から説明もありましたけれども、中には、前回の水害のときにコンピューター等は高いところへ上げたのに、それでつかってしまったというところもありました。四機ポンプはあるんだけど二機しか駆動しなかったというところもありました。ですから、そういういったいわゆる農業利用施設、共同利用施設、排水から、それから水路も含めて、しっかりと災害に強い農業基盤を守るための検討と対策をもう一度取りまとめたい必要があるんだらうというふうな考えております。

もうちよつとするとパッケージが出てきても、これで終わりだとは思っておりませう。補正もやるというふうなことも伝わってきておりますので、もう現場の状況というのは日に日に刻々変わっ

ていきますし、現場のニーズとかお気持ちも変わっていくと思っております。パッケージまとめ

た、はい終了ということではなくて、それをどのように現場の方が受け止められたのか、どのように活用されているのか、足らざるのところは一体どこにあるのか、そういうことも息長く見させていたきたいと、そして補正についても、やるのであれば堂々と要求していきたいと考えております。

○宮崎雅夫君 大臣、ありがとうございます。非常に力強い、また引き続き支援をやっていくというお話も頂戴いたしました。

これまで災害対応について質問をさせていただいたわけでございませうけれども、やはり自然災害が多発化、激甚化する中で、防災・減災、国土強靱化の取組を積極的に進めていかなければなりません。それと同時に、我々は、やはり改めて洪水の防止、こういったことなど、農業、森林が果たす多面的なやはり役割について分かりやすく国民の皆さんに発信をして、理解を得る努力をしっかりとやっていく必要があるというふうな思っております。

防災・減災、国土強靱化について、現在、農林水産省では、農業水利施設、治山、漁港などについて集中的な取組を進めていただいておりますけれども、農林水産分野のこれらの国土強靱化の取組の状況についてお伺いをいたします。



については被害はゼロですと、同じ時期に就農したのに僕のところは全滅、彼のところは全部セーフ。責められはしませんでしたけど、不公平だと思うと言ったら、思いますというふうに言われました。ですから……

○委員長（江島潔君） 大臣、時間が来ておりますから簡潔にお願いいたします。

○国務大臣（江藤拓君） はい。

そういうことも含めて、しっかりやらせていただきたいと思います。

○宮崎雅夫君 是非、大臣、よろしくお願いを申し上げます。

私は、これまで土地改良、農山漁村は未来への礎であるというふうに訴えてまいりました。大臣の所信でも、農林水産業は国の基であるというお話もございました。私もそのとおりだというふうに思います。

土地改良による生産基盤の整備を進めて、農林水産業の発展と農山漁村の振興が欠かせないということを最後に申し上げます。質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。
○委員長（江島潔君） 本日の調査はこの程度にとどめ、これにて散会いたします。